

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 11137338 A

(43) Date of publication of application: 25 . 05 . 99

(51) Int. Cl.

A45D 44/22

A61K 7/00

(21) Application number: 09313807

(71) Applicant: SHISEIDO CO LTD

(22) Date of filing: 14 . 11 . 97

(72) Inventor: SAEKI TAKESHI

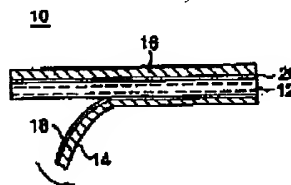
(54) PACK AND ITS USING METHOD

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(57) Abstract

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To unnecessitate applying a pack agent directly with one's fingers and to remove dirt on the surface of a skin by arranging a pair of sheet materials to separably stick to the pack agent so as to insert the pack agent of a nearly uniformed peel-off type.

**SOLUTION:** The pack agent 12 is of a peel-off type to dry and peel off after applying to a face or a body. The advantage of this peel-off type pack agent is making a skin soft and moist and removing dirt on the surface of the skin at the time of drying and peeling off. A pair of separators 14 and 16 are constituted of resin films or sheet members such as paper and arranged so as to insert the pack agent 12. First and second silicone layers 18 and 20 are inserted between the respective separators 14, 16 and the pack agent 12. These first and second silicone layers 18 and 20 are arranged so as to facilitate peeling off the separators 14 and 16 with respect to the pack agent 12.



PFS NO=97313607 CC=JP

集合をクリックすると一覧を10件単位で表示します。

DN : JP A2 11137338 (1999/05/25)

FAMILY MEMBERS

CC	PUBDAT	KD	DOC. NO.	CC	PR. DAT	YY	PR. NO.
JP	1999/05/25	A2	11137338	JP	1997/11/14	97	313607

S1	IP	1
S2	P	1
S3	U	0

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-137338

(43) 公開日 平成11年(1999) 5月25日

(51) IntCl<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 4 5 D 44/22

A 4 5 D 44/22

C

Z

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/00

U

Q

審査請求 未請求 請求項の数 4 OL (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平9-313607

(22) 出願日

平成9年(1997)11月14日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 佐伯 毅

大阪府大阪市東成区東小橋2-11-10 株

式会社資生堂ビューテック内

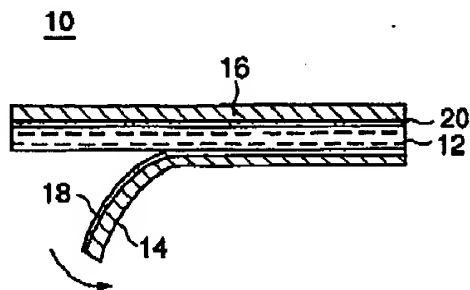
(74) 代理人 弁理士 伊東 忠彦

(54) 【発明の名称】 バック及びその使用方法

(57) 【要約】

【課題】 本発明はピールオフタイプのバック剤を用いるバック及びその使用方法に関し、バック剤を直接指で塗らなくてもよく、かつ皮膚表面の污垢を取り去ることができるようにすることを課題とする。

【解決手段】 バックを、略均一の厚さとされたピールオフタイプのバック剤12と、このバック剤12に対し剥離可能な構成とされたシート部材14、16をバック剤12を挟むように配設する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 略均一の厚さとされたピールオフタイプのバック剤と、

該バック剤を挟むように配設され、該バック剤に対し剥離可能に貼着された一対のシート部材とを具備することを特徴とするバック。

【請求項2】 請求項1記載のバックにおいて、前記シート部材と前記バック剤との界面にシリコンを介装してなることを特徴とするバック。

【請求項3】 請求項1または2記載のバックにおいて、

前記シート部材を前記バック剤を塗布するバック位置に対応した形状に成形してなることを特徴とするバック。

【請求項4】 請求項1乃至3のいずれかに記載のバックの使用法において、

まず、前記バック剤を挟むように配設された一対のシート部材の内、一方のシート部材を剥がすことにより前記バック剤を露出させ、

次に、前記バック剤に貼着されている他方の前記シート部材を用いてバック位置にバック剤を塗布し、

次に、前記バック位置に塗布された前記バック剤から前記他方のシート部材を剥がすことを特徴とするバックの使用法。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はバック及びその使用方法に係り、特にピールオフタイプのバック剤を用いるバック及びその使用方法に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、古くから用いられている化粧品の一つとしてバックが知られている。このバックはバック剤を直接塗布して用いるものであり、顔のみにならず、首、肩、腕、脚等の部分用ばかりか、全身にも用いられる。また、バックとして多種多様の製剤が提供されており、その代表的なものとしては、ピールオフタイプ、拭き取り・洗い流しタイプ、貼付タイプ等がある。

【0003】ピールオフタイプは、バック剤を顔や体に付けた後、乾燥させ剥がすタイプのバックである。このピールオフタイプのバックは、皮膚を柔軟にしっとりさせると共に、乾燥剥離時に皮膚表面の污垢を取り去る等の長所を有している。また、拭き取り・洗い流しタイプは、バック剤を顔や体に付けた後拭き取るタイプのバックである。この拭き取り・洗い流しタイプのバックは、皮膚を柔軟にしっとりさせると共に、拭き取り・洗い流し時に皮膚表面の污垢を取り去る等の長所を有している。

【0004】更に、貼付タイプは、不織布にゲル状のバック剤を塗布されたものをバック位置に貼るタイプのバックである。この貼付タイプのバックは、使用前の状態でバック剤が塗布された不織布を挟むようにセパレー

ター（例えば、樹脂シート等）が配設されている。この貼付タイプのバックは、上記2種のタイプと同様に、皮膚を柔軟にしっとりさせる効果を有し、また使用時には不織布にバック剤が塗布されているためセパレーターを剥がして貼着するだけでよく、指が汚れない、拭き取り・洗い流す必要がない等の長所がある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかるに、上記した各バックでは以下のような欠点を有している。ピールオフタイプのバックでは、バック剤を指に取りバック位置に塗布するため、指先にバック剤が付着して汚れてしまう。また、バック位置に均一の厚さでバック剤を塗布することが困難であり、よって乾きにむらがあるため、全体を乾燥させるには時間がかかってしまう。

【0006】また、拭き取り・洗い流しタイプのバックでは、ピールオフタイプと同様にバック剤を指に取り塗布するため指先が汚れてしまう。また、拭き取り・洗い流しタイプでは、塗布後に塗布したバック剤を拭き取るか、或いは洗い流す必要があり、面倒さがある。更に、貼着タイプでは、バック剤が指に付着しない効果はあるものの、皮膚表面の污垢を取り去る効果がない。また、不織布の厚みがあるため、使用時にゴワゴワ感があり、使用性があまりよくない等の問題点がある。

【0007】本発明は上記の点に鑑みてなされたものであり、バック剤を直接指で塗らなくてもよく、かつ皮膚表面の污垢を取り去ることができるバック及びその使用方法を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために本発明では、次に述べる手段を講じたことを特徴とするものである。請求項1記載の発明に係るバックでは、略均一の厚さとされたピールオフタイプのバック剤と、このバック剤を挟むように配設され、バック剤に対し剥離可能に貼着された一対のシート部材とを具備することを特徴とするものである。

【0009】また、請求項2記載の発明では、前記請求項1記載のバックにおいて、前記シート部材と前記バック剤との界面にシリコンを介装したことを特徴とするものである。また、請求項3記載の発明では、前記請求項1または2記載のバックにおいて、前記シート部材を前記バック剤を塗布するバック位置に対応した形状に成形したことを特徴とするものである。

【0010】更に、請求項4記載の発明では、前記請求項1乃至3のいずれかに記載のバックの使用法において、まず、前記バック剤を挟むように配設された一対のシート部材の内、一方のシート部材を剥がすことにより前記バック剤を露出させ、次に、前記バック剤に貼着されている他方の前記シート部材を用いてバック位置にバック剤を塗布し、次に、前記バック位置に塗布された前記バック剤から前記他方のシート部材を剥がすことを特

微とするものである。

【0011】上記の各手段は、次のように作用する。請求項1記載の発明によれば、バック剤は予め略均一の厚さとされているため、乾きにむらが生じることを防止でき、よって全体を乾燥させるのに要する時間の短縮を図ることができる。また、バック剤を挟むように一対のシート部材が配設されているため、バック剤をバックしようとする目的位置（バック位置）に塗布する際、先ず一方のシート部材を剥がしてバック剤を露出した状態とし、剥がしていない他方のシート部材を用いてバック剤をバック位置に塗布することが可能となる。

【0012】よって、ピールオフタイプのバック剤であっても、バック剤を指に取り塗布する必要がなくなり、指がバック剤で汚れることを防止できるため使用性を向上することができる。また、塗布が終了した時点で、他方のシート部材をバック剤から剥がすことにより、他方のシート部材がバック剤の乾燥に影響することを防止することができる。更に、バック剤はピールオフタイプのもを用いてるため、乾燥剥離時に皮膚表面の汚垢を取り去ることができる。

【0013】また、請求項2記載の発明によれば、シート部材とバック剤との界面にシリコンを介装したことにより、シリコンはシート部材とバック剤との貼着性を弱めるため、バック剤からシート部材を剥がす処理を容易に行なうことができる。また、請求項3記載の発明によれば、シート部材をバック剤を塗布するバック位置に対応した形状に成形しておくことにより、塗布時にバック剤の塗布位置を指で調整する必要がなくなり、更に使用性を向上させることができる。

【0014】更に、請求項4記載の発明によれば、先ず、バック剤を挟むように配設された一対のシート部材の内、一方のシート部材を剥がすことによりバック剤を露出させる。この際、他方のシート部材はバック剤に貼着された状態を維持しているため、一方のシート部材を剥がす際にバック剤が指に付着するようなことはない。

【0015】続いて、バック剤に貼着されている他方のシート部材を用いてバック位置にバック剤を塗布するが、このバック剤の塗布処理も、他方のシート部材を指に持って行なうことができるため、バック剤が指に付着するようなことはない。続いて、バック位置に塗布されたバック剤のみがバック位置に塗布された状態となる。この他方のシート部材を剥がす処理も、他方のシート部材を指に持って行なうことができるため、バック剤が指に付着するようなことはない。

【0016】このように、バック位置にバック剤を塗布する処理は、バック剤に指を触れることなく行なうことができるため、その使用性は極めて良好となる。また、バック剤としてピールオフタイプのバック剤を用いているため、乾燥剥離時に皮膚表面の汚垢を取り去ることが

できる。更に、バック剤を塗布する際に使用する一対のシート部材は、バック剤をバック位置に塗布した後に取り除かれるため、使用時のゴワゴワ感も無く、使用性を良好とすることができる。

【0017】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形成について図面と共に説明する。図1は、本発明の一実施例であるバック10の断面を拡大して示す図である。同図に示すように、本実施例に係るバック10は、大略するとバック剤12と、第1及び第2のセパレーター14、16とにより構成されている。

【0018】バック剤12は、顔や体に塗布した後乾燥させ剥がすタイプのピールオフタイプのバック剤である。前記したように、このピールオフタイプのバック剤12は、皮膚を柔軟にしとりさせると共に、乾燥剥離時に皮膚表面の汚垢を取り去る等の長所を有している。また、一対のセパレーター14、16は、樹脂フィルム或いは紙等のシート部材により形成されており、バック剤12を挟むように配設されている。また、各セパレーター14、16とバック剤12との間には、第1及び第2のシリコン層18、20が介装されている。

【0019】この第1及び第2のシリコン層18、20は、バック剤12に対し第1及び第2のセパレーター14、16を剥がしやすくするために配設されている。即ち、後述するように、第1及び第2のセパレーター14、16は、バック剤12をバック位置28に塗布する際にバック剤12から剥離させるが、この際に直接第1及び第2のセパレーター14、16をバック剤12を貼着（接着）した構成では、バック剤12の貼着性が高いために容易に第1及び第2のセパレーター14、16を剥がすことが困難となる。

【0020】これに対し、第1及び第2のシリコン層18、20は、バック剤12に対する貼着力は弱く、第1及び第2のセパレーター14、16に対する貼着力は高い特性を有している。従って、第1及び第2のシリコン層18、20を設けることにより、バック剤12に対し第1及び第2のセパレーター14、16を剥がしやすくすることができる。

【0021】また、第1及び第2のセパレーター14、16をバック剤12から剥がした際に、第1及び第2のシリコン層18、20がバック剤12に残存するようなこともない。また、本実施例では、第1及び第2のシリコン層18、20の量を適宜調整することにより、第1のセパレーター14とバック剤12との貼着力に対し、第2のセパレーター16とバック剤12との貼着力の方が大きくなるよう設定されている。よって、第1及び第2のセパレーター14、16を同時にバック剤12から剥がそうとした場合、先に第1のセパレーター14が剥がれる 成となっている。

【0022】続いて、上記構成とされたバック10の製

造方法について、図2乃至図8を用いて説明する。バック10を製造するには、先ず図2に示されるように、シリコンを塗布することにより第1のシリコン層18が形成された第1のセパレーター14を用意する。この第1のセパレーター14としては、例えば50 $\mu$ mの厚さを有したポリエチレンフィルムを用いている。

【0023】続いて、図3に示されるように、第1のシリコン層18が形成された第1のセパレーター14の上部にシルクスクリーン22を配設すると共に、スキージ24を用いてバック剤12を所定形状にシルクスクリーン印刷を行なう。本実施例で用いるシルクスクリーン22は顔形の版とされており、よって図4に示される印刷された状態のバック剤12は、その形状が顔形になっている。また上記印刷を行なう際、バック剤12は第1のセパレーター14の上部に20g/m<sup>2</sup>の量密度で印刷（塗布）されるよう構成されている。本実施例のように、シルクスクリーン印刷を用いてバック剤12を塗布することにより、塗布位置全体にわたりバック剤12の厚さを均一化することができる。

【0024】上記したバック剤12の印刷が終了すると、続いて図5及び図8に示されるように、シリコンを塗布することにより第2のシリコン層20が形成された第2のセパレーター16をバック剤12の上部に貼着する。本実施例では、この第2のセパレーター16も第1のセパレーター14と同様に、50 $\mu$ mの厚さを有したポリエチレンフィルムを用いている。尚、第1のセパレーター14と第2のセパレーター16は、必ずしも同一材料とする必要はなく、異なる材質により構成することも可能である。

【0025】上記のように第2のセパレーター16を配設することにより、バック剤12は第1及び第2のセパレーター14、16に挟まれた状態となる。また、各セパレーター14、16とバック剤12との間には第1及び第2のシリコン層18、20が介在した構成となる。続いて、図7に示されるように、プレス金型26を用いてバック剤12、第1及び第2のセパレーター14、16に対しプレス打ち抜き加工を行なう。このプレス金型26は、前記した顔形に対応した型形状とされている。

【0026】このため、プレス金型26を用いてバック剤12、第1及び第2のセパレーター14、16に対しプレス打ち抜き処理を行なうことにより、図8に示す顔形を有したバック10が製造される。また、このようにして形成されるバック10の断面構造は、図1に示した構造となる。尚、上記した実施例に係るバック10の製造方法では、図3に示すバック剤12の塗布処理において、シルクスクリーン22を用いてバック剤12を顔形に印刷する構成とした。

【0027】しかるに、顔形のバック10を製造する方法はこれに限定されるものではなく、例えば第1のセパレーター14にバック剤12を塗布する際、第1のセパ

レーター14の全面にバック剤12を塗布し、図7に示すプレス打ち抜き処理において顔形に打ち抜くことにより、図8に示す顔形のバック10を製造する構成としてもよい。

【0028】続いて、バック10の使用方法について、図9乃至図13を用いて説明する。バック10に設けられたバック剤12を顔、首、腕等のバックしようとする位置（以下、バック位置28という）に塗布するには、先ず図9に示されるように、バック剤12を挟むように配設された一対のセパレーター14、16の内、一方のセパレーター（本実施例では第1のセパレーター14）を剥がすことによりバック剤12を露出させる。

【0029】この際、バック10を使用する者（以下、使用者という）は、片手で第2のセパレーター16を保持し、他方の手で第1のセパレーター14を把持してバック剤12から剥がす処理を行なう。よって、使用者は直接バック剤12に触れることなく、第1のセパレーター14をバック剤12から剥がすことができる。上記のように第1のセパレーター14をバック剤12から剥がすと、続いて使用者は第2のセパレーター16を指で把持してバックを行なおうとするバック位置28にバック剤12を塗布（配設）する。図10は、バック位置28にバック剤12を塗布した状態を示している。

【0030】前記したように、第1のセパレーター14をバック剤12から剥がした後も、第2のセパレーター16はバック剤12に貼着した状態を維持している。このため、使用者はバック剤12を塗布する時、第2のセパレーター16を指で把持して塗布処理を行なうことができる。従って、バック剤12に直接指に触れることなく塗布処理を行なうことが可能となり、よってバック10の塗布処理時における使用性を向上させることができる。

【0031】またこの塗布処理の際、バック10（セパレーター14、16）をバック剤12を塗布するバック位置28に対応した形状に成形しておくことにより、塗布時にバック剤12の塗布位置を指で調整する必要を無くすることができる。即ち、例えば顔にバック剤12を塗布する場合には、前記したようにバック10を顔形に成形しておくことにより、単に顔にバック10（第1のセパレーター14を剥がしたものを）を設置するだけでバック剤12を所定バック位置28に塗布することができ、使用性を向上させることができる。

【0032】上記のようにバック位置28にバック剤12が塗布されると、図11に示されるように、続いて使用者はバック位置28に塗布されたバック剤12から第2のセパレーター16を剥がす処理を行なう。この第2のセパレーター16を剥がす処理を行なうことにより、図12に示されるように、バック位置28にバック剤12のみが塗布された状態となる。

【0033】この第2のセパレーター16をバック剤1

10

20

30

40

50

2から剥がす処理も、第2のセパレーター16を指に持って行なうことができるため、バック剤12が指に付着するようになることはない。よって、第2のセパレーター16をバック剤12から剥がす処理も使用性よく行なうことができる。前記したように、バック剤12はピールオフタイプであるため、図12に示すようにバック位置28にバック剤12を塗布した後、しばらくそのまま状態で放置してバック剤12を乾燥させる。この際、前記したように、本実施例ではバック剤12の厚さは略均一とされているため、乾きにむらが生じることを防止でき、よって全体を乾燥させるのに要する時間の短縮を図ることができる。

【0034】また、図12の状態から明らかなように、バック剤12を塗布する際に使用する第1及び第2のセパレーター14、16は、バック剤12をバック位置に塗布した後に取り除かれるため、使用時（乾燥時）のゴワゴワ感も無い。バック剤12が乾燥すると、図13に示すように、続いてバック位置28からバック剤12を剥がす処理を行なう。この際、バック剤12はピールオフタイプであるため、剥離時に皮膚表面の汚垢を取り去ることができる。

【0035】上記してきたように、本実施例に係るバック10及びその使用方法を用いることにより、バック位置28にバック剤12を塗布する処理は、バック剤12に指を触れることなく行なうことができるため、その使用性を極めて良好なものとして行うことができる。また、バック剤12としてピールオフタイプのものを用いているため、乾燥剥離時に皮膚表面の汚垢を取り去ることができる。

【0036】

【発明の効果】上述の如く本発明によれば、次に述べる種々の効果を実現することができる。請求項1記載の発明によれば、ピールオフタイプのバック剤であっても、バック剤を指に取り塗布する必要がなくなり、指がバック剤で汚れることを防止できるため使用性を向上することができる。

【0037】また、塗布が終了した時点で、他方のシート部材をバック剤から剥がすことにより、他方のシート部材がバック剤の乾燥に影響することを防止することができる。更に、バック剤はピールオフタイプのものを用いているため、乾燥剥離時に皮膚表面の汚垢を取り去ることができる。また、請求項2記載の発明によれば、シート部材とバック剤との界面にシリコンを介装したことにより、シリコンはシート部材とバック剤との接着性を弱めるため、バック剤からシート部材を剥がす処理を容易に行なうことができる。

【0038】また、請求項3記載の発明によれば、シート部材をバック剤を塗布するバック位置に対応した形状に成形しておくことにより、塗布時にバック剤の塗布位

置を指で調整する必要がなくなり、更に使用性を向上させることができる。更に、請求項4記載の発明によれば、バック位置にバック剤を塗布する際、バック剤に指を触れることなく行なうことができるため、その使用性を極めて良好とすることができる。

【0039】また、バック剤としてピールオフタイプのバック剤を用いているため、乾燥剥離時に皮膚表面の汚垢を取り去ることができる。更に、バック剤を塗布する際に使用する一対のシート部材は、バック剤をバック位置に塗布した後に取り除かれるため、使用時のゴワゴワ感も無く、使用性を良好とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例であるバックの断面を拡大して示す図である。

【図2】本発明の一実施例であるバックの製造方法を製造手順に沿って説明するための図である（その1）。

【図3】本発明の一実施例であるバックの製造方法を製造手順に沿って説明するための図である（その2）。

【図4】本発明の一実施例であるバックの製造方法を製造手順に沿って説明するための図である（その3）。

【図5】本発明の一実施例であるバックの製造方法を製造手順に沿って説明するための図である（その4）。

【図6】本発明の一実施例であるバックの製造方法を製造手順に沿って説明するための図である（その5）。

【図7】本発明の一実施例であるバックの製造方法を製造手順に沿って説明するための図である（その6）。

【図8】本発明の一実施例であるバックを人の顔の形状に成形した例を示す図である。

【図9】本発明の一実施例であるバックの使用方法を製造手順に沿って説明するための図である（その1）。

【図10】本発明の一実施例であるバックの使用方法を製造手順に沿って説明するための図である（その2）。

【図11】本発明の一実施例であるバックの使用方法を製造手順に沿って説明するための図である（その3）。

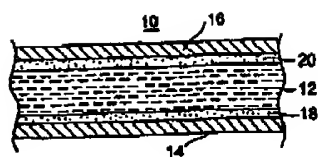
【図12】本発明の一実施例であるバックの使用方法を製造手順に沿って説明するための図である（その4）。

【図13】本発明の一実施例であるバックの使用方法を製造手順に沿って説明するための図である（その5）。

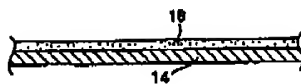
【符号の説明】

- 10 バック
- 12 バック剤
- 14 第1のセパレーター
- 16 第2のセパレーター
- 18 第1のシリコン層
- 20 第2のシリコン層
- 22 マスク
- 24 スキージ
- 26 プレス金型
- 28 バック位置

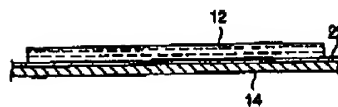
【図1】



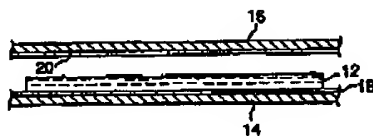
【図2】



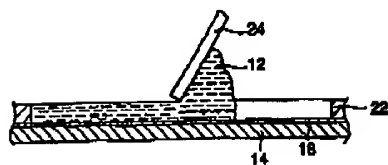
【図4】



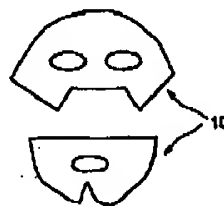
【図5】



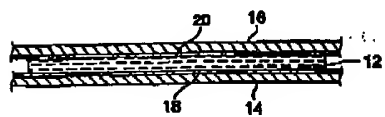
【図3】



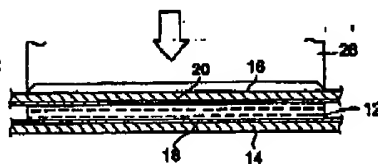
【図8】



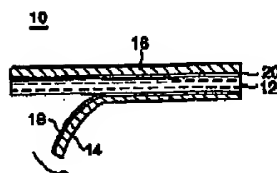
【図6】



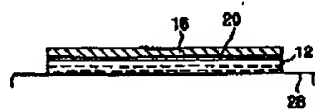
【図7】



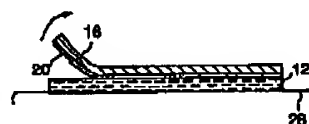
【図9】



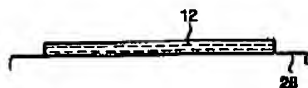
【図10】



【図11】



【図12】



【図13】

